

第63回愛知県消防操法大会

吉良消防団が13年ぶりの栄冠に

7月28日、県消防操法大会が稲沢市で行われ、西尾市を代表して出場した吉良消防団がポンプ車操法の部で見事優勝を飾りました。4月から厳しい練習を重ねてきた選手たちは、その成果をいかに発揮。ホースをつなぎ約50メートル先の標的に放水するまでのスピードと一糸乱れぬ正確な操作、細かな手の動きにまで行き届いたチームの規律正しさを披露していました。吉良消防団の優勝は合併前の平成17年以来13年ぶり。合併後に出場した西尾市の消防団では初の快挙です。



インターハイ少林寺拳法

鶴城丘高校、華麗に演武披露

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）少林寺拳法競技大会が8月3日～5日に総合体育館で行われ、全国から700人以上の拳士が日本一を目指して集いました。開会式では地元鶴城丘高校の米津有麻選手が元気よく選手宣誓。競技には同校女子部員が単独・組・団体演武にそれぞれ出場しました。惜しくも入賞とはなりませんでした。積み重ねてきた練習の成果を精一杯に披露。どの選手にとっても心に残る、かけがえない大会となっていたようです。



堤通手永御田扇祭り

20年に一度巡ってくる渡御行列



7月22日に、市指定無形民俗文化財の「堤通手永御田扇祭り」が開催されました。江戸時代から岡崎藩領内の手永（当時の行政区画）で行われてきた五穀豊穰・町内安全・天下和順などを願う民俗行事。堤通手永は西尾市と岡崎市の20の町で構成され、みこしを中心とした渡御行列が手永内を毎年順番に巡行します。新村町の神明社を出発したみこしは、西浅井町の白山神社まで渡御。町境では、新村町で1年間大切に保管されてきた祭具一式が西浅井町に受け渡されました。



親子で魚食教室

もっと魚を食べよう！

8月4日、吉良町公民館で「魚をみて・さわって・さばいて食べよう！ 親子で魚食教室」が開催されました。この講座は魚離れの家庭が増える中、「魚にもっと興味を持ち、もっと食べてほしい」という思いから企画されました。参加者は、講師のお手本をじっくり観察した後、タコのぬめり取りや、タイのうろこを取って三枚おろしに挑戦。タコや魚の感触に驚いたり、包丁で魚をさばくのに悪戦苦闘したりしながらも、親子で楽しく調理していました。



高校野球で甲子園出場

憧れの大舞台で、元気はつらつ



8月9日、第100回全国高校野球選手権記念大会の1回戦で愛産大三河高校（東愛知）が横浜高校（南神奈川）と対戦しました。愛産大三河の6番ライトで出場した石原剣太選手（右／2年生／西尾中学校出身）は、3打席目に鋭い打球でライト前へヒット。1塁コーチでランナーに的確な指示を出していた石川大雅選手（左／3年生／幡豆中学校出身）は9回に代走で出場し全力疾走。チームは0対7で敗退しましたが、アルプス応援席からは躍動する選手に大声援が送られていました。

にしお大学かんきょう学部「西尾の虫たち」

危険な生き物のすみかを観察

8月7日、いきものふれあいの里でにしお大学かんきょう学部「西尾の虫たち」が行われました。西尾に住む生き物を通し、環境について学ぶ講座で、今回の目玉はスズメバチの巣の解体。最大53センチメートルの巨大な巣を目の前にした子どもたちは恐る恐る触れ、壊していきました。中から幼虫やサナギなどを見つけ、その数や様子をメモに取るなど、熱心に巣の構造を観察。スズメバチの生態を知り、危険から身を守る方法を楽しんでいました。



はずストーンカップチャレンジレース

三河湾で白熱のレースを展開



第22回ははずストーンカップチャレンジレース2018が8月5日、東幡豆町の東幡豆海岸で行われました。手作りのイカダで海に浮かぶブイを回ってゴールするまでのタイムを競うレースに、63チームが出場。幡豆石を加工した「ストーンカップ」を目指し、エキスパートや一般、親子・レディースなど5つの部門で熱戦が繰り広げられました。トーナメント方式で短距離王を決めるスプリントレースも開催。選手たちは掛け声を合わせてパドルを力いっぱい漕ぎ、水しぶきを上げながら手作りのイカダで三河湾を疾走していました。